

2022.7.29

三重県鈴鹿市議会 地域福祉委員会

ALLふじさわで取り組む!

# 藤沢型 地域包括ケアシステム

～支えあいの地域づくりの実現をめざして～

福祉部  
地域共生社会推進室

はじめに



## 【藤沢市の概要】

面積：69.56 km<sup>2</sup>

人口：444,128 人

世帯数：191,159 世帯

## 【鉄道交通】鉄道路線の駅数

J R東海道本線	2 駅	小田急江ノ島線	9 駅
江ノ島電鉄線	6 駅	相鉄いずみ野線	1 駅
横浜市営地下鉄	1 駅	湘南モノレール	2 駅

## 【名所・観光】

江の島、遊行寺、湘南海岸、新江ノ島水族館

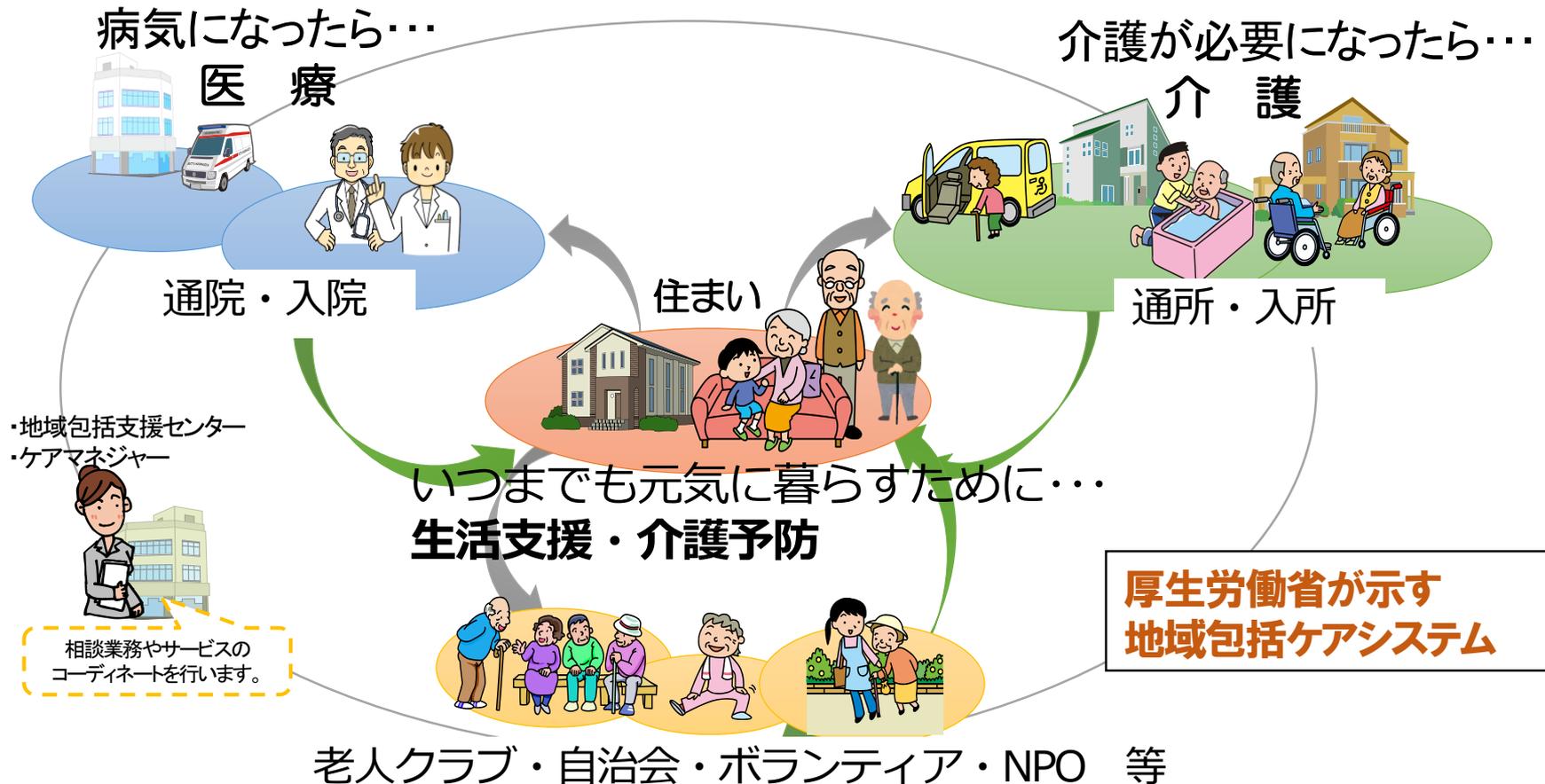


(2022年6月現在)

項目	藤沢市	鈴鹿市
総人口	444,128人	196,955人
世帯数	209,385世帯	88,236世帯
面積	69.57km <sup>2</sup>	194.7km <sup>2</sup>
日常生活圏域	13地区	8地区
高齢者数	108,571人	50,363人
高齢化率	24.45%	25.57%
地域包括支援センター	19カ所	8カ所

# 一般的に「地域包括ケアシステム」とは・・・高齢者を対象とした支援ネットワーク

○団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現。**



# 2025年問題

2025年には、団塊の世代（人口が多い）が75歳を迎える。

※健康寿命は男性72.14歳・女性74.79歳  
→75歳 > 健康寿命

## →医療や介護のニーズが増大

※健康寿命とは、元気に自立して生活できる期間のこと

⇒健康寿命を過ぎると、支援や介護が必要になる方が増加

# 2040年問題

2040年には、さらに少子高齢化が進み、団塊世代の多くが人生の終わりを迎える。

## 【日本の年間死亡者数】

2017年	年間	134万397人
2040年前後	年間	167万人程度と推計

→ 多死社会

現在よりも  
約30万人増

# 超高齢社会に想定される主な課題

**社会保障費 の増大**

高齢化率が上がり、介護や医療が必要な方が増えることで、社会保障費が増大することが想定されます。

**&**

**担い手 の不足**

高齢化率が上がり、逆に生産年齢人口（15～64歳）の割合は減るため、医療や介護をはじめとしたニーズが増える一方、労働力となる担い手は減少することが想定されます。



**こういった課題に対応するため、  
地域包括ケアシステムが生まれました。**

# 「藤沢型」地域包括ケアシステムとは

地域包括ケアシステム

…高齢者を対象

「藤沢型」地域包括ケアシステム

…すべての人を対象



「藤沢型」は、地域包括ケアシステムの考え方を、全世代・全対象に広げ、様々な取組を進めています。

# なぜ「藤沢型」は、全世代を対象としているのか・・・

## 生活困窮

仕事もなく経済的に生活できるか不安・・・

## 8050問題

うちの子、もう何年も引きこもってる・・・

## 親亡き後

うちの子、障がいがあるけど、私が居なくなったらどうしよう

## ダブルケア

親の介護はどうすればいいんだろう・・・

## 母子の孤立

これから先、一人で産んで一人で育てていくのかな・・・

## 子どもの貧困

お腹がすいた・・・あたたかいご飯が食べたいな・・・



妊娠、出産、子育て、介護、障がい、生活困窮、社会的孤立等、  
**地域に住む人の抱える不安や課題は高齢者のものだけではありません。**

藤沢型地域包括ケアシステムは、

住民が抱える**地域生活課題の解決**に向けて、

**支えあいの地域づくり**を進める取組です。

目指す将来像 **「誰もが、住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けることができるまち」**

誰もが

子ども、若者、子育て世代、高齢者など全世代を対象としています。

住み慣れた地域で

市内13地区ごとに、各地区の持っている強みを生かした地域づくりを支援します。

その人らしく

心身の状況や経済状況など、それぞれの立場を尊重し、支えあう地域をめざします。

安心して

身近な地域で、お困りの時に気軽に相談できる場所、専門職など、暮らしを支える仕組みを整えます。

## 多様な主体による「参加」と「協働」

様々な業種や分野の団体や、  
すべての個人が、  
分野や職種の垣根を越えて結びつく（＝マッチング）  
単独の分野で解決が難しい課題も、  
協働することによる解決をめざします。

○○分野

×

○○分野

# 藤沢型地域包括ケアシステム 4つのポイント

## ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。これからは、支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

## ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。分野を超えた横のつながりで課題を解決するネットワークが必要。

## ③ 【推進体制】

藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

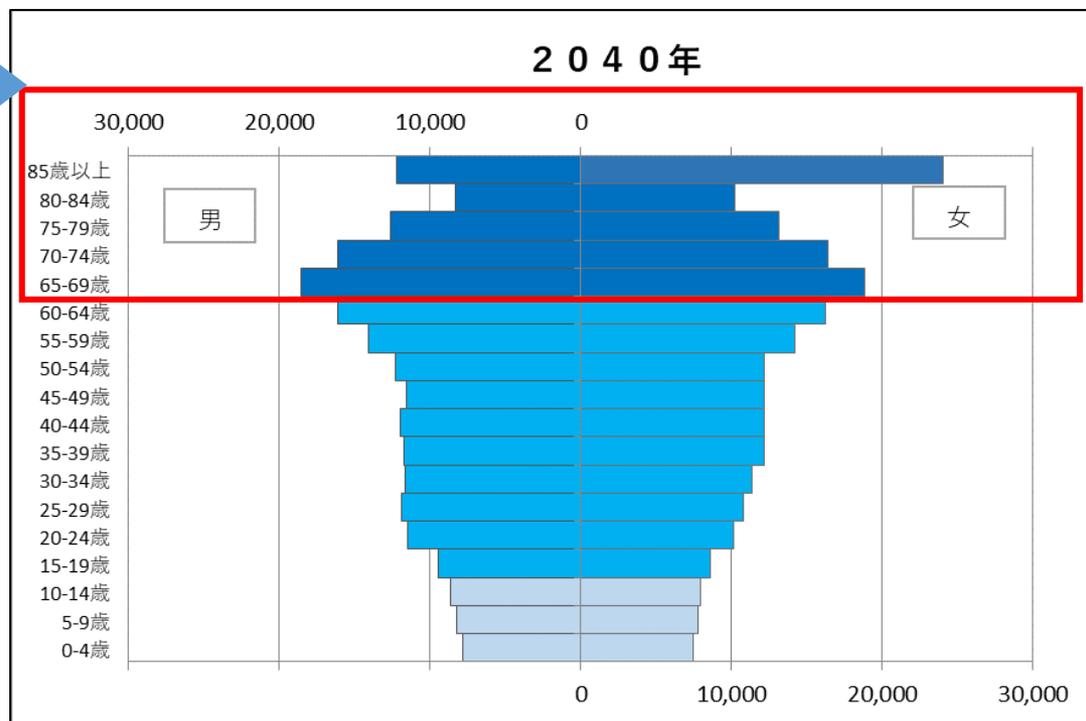
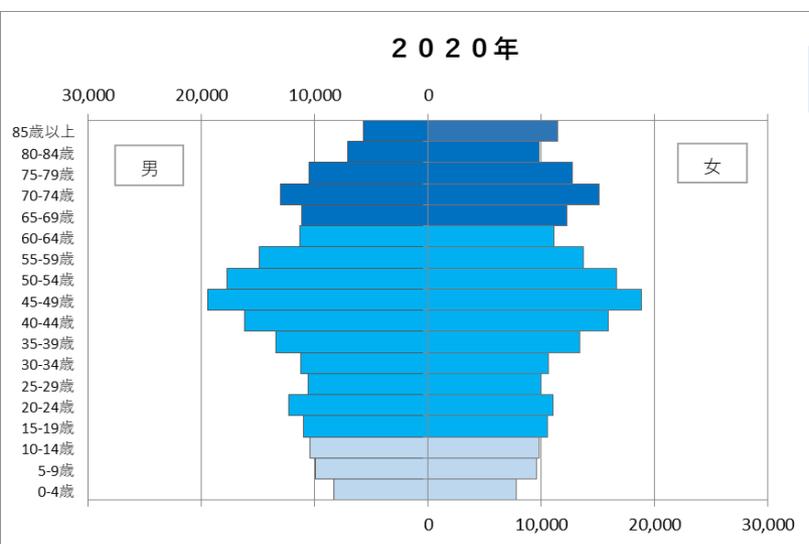
## ④ 【地域福祉計画】

地域共生社会の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステムの考え方や方向性を踏まえ、地域福祉を総合的に推進する理念計画。

# ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。

【藤沢市の将来人口推計（2020年と2040年の人口構造）】



出典：藤沢市市政運営の基本方針2024

「現役世代が高齢者を支える」といった、これまでの社会構造の維持が困難になる。

## ①【背景】

これからは、地域の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり  
持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

【これまでの社会構造】



【めざす姿】



- ・誰もが「支え手」「受け手」となり、地域で支えあうネットワークを形成
- ・ネットワークには個人だけでなく、社会福祉法人や民間企業なども参画

「**地域共生社会**」の考えにもつながります。

# ①【背景】 地域の支え手として様々な方が活躍する事例

高齢者や、障がいのある人等が、地域の支え手として活躍している様々な事例があり、行政として、これらの活動をサポートしています。



## 地区ボランティアセンター

高齢者等の生活上の困りごとや、生きがいづくりをサポートする地域団体。市内12か所設置。

ボランティア参加者の高齢化、新たな担い手の不足が課題の一つとなっています。

▶ 高齢者福祉

×

障がい者福祉

若者・自立支援

【取組】 障がい福祉サービス事業所や自立支援機関と連携して、障がいのある人や自立に困難を抱える若者のボランティア参加を支援。

地域の**担い手確保**と、多様な**社会参加の促進**の相乗効果を狙う。

さらに、様々な効果が・・・

- 地域における障がい等の理解促進
- 世代間交流のきっかけ
- 人に教えることが自分の学びにつながる など

# ①【背景】

## 地域における横断的なつながり・民間企業との連携

### 地域の力

地域における気軽に通える居場所が、多世代交流・健康づくり・気軽な相談など、様々な顔をもつ拠点に。



(地域の縁側 もんのきの家)



(地域の縁側 おしゃべり処大福)

### 企業の力

企業の日頃からの取組を見守り活動に生かすため、市と見守りについての協定を締結。



当店(当社)は  
藤沢市の  
地域見守り活動に  
協力しています!!

あじきん

連絡先: 藤沢市地域包括ケアシステム推進室  
☎0466-50-3523  
(平日: 午前8時30分~午後5時)  
※緊急時は、警察署(110番)・消防署(119番)へ



## 地域の縁側（ちいきのえんがわ）

誰もが気軽に立ち寄ることができ、地域の相談窓口としての機能も備えた多世代交流の場。多様な主体が工夫を凝らし、地域のインフォーマルな力と協働して運営。市と市社協が立ち上げや運営を支援し、小学校区に1か所以上を目標に整備中。ボランティアポイント制あり。



基本型

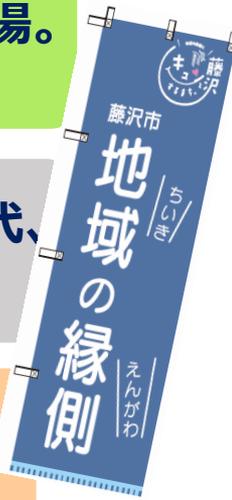
高齢者、障がい者、子ども等、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場。最も基本的な地域の縁側だがコンセプトは様々。

特定型

特定の世代や属性を対象とした交流の場。高齢者、子育て世代、障がい児者、がん患者と家族など。

基幹型

地区内の「地域の縁側」の中核機能を持つ、高齢者、障がい者、子ども等、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場。生活支援コーディネーターを配置し、一般介護予防事業も実施。



# 地域の縁側 ～実践事例 多種多様なコンセプト～

「たきパラ食堂」も  
始めました！



(ヨロシク♪まるだい)



(たきのさわパラダイス)

運営形態は、空き店舗活用型、公共施設一部利用型、自宅開放型、企業との連携型など様々で、運営主体も地域団体、住民グループ、NPO法人、社会福祉法人など多種多様。

子どもと地域の大人をつなぐ みんなの居場所です。



(地域交流サロン「ゆい」)

# 民間企業等との協働のイメージ

近年では、企業としての社会貢献に関する責務（CSR）が求められており、様々な企業等が地域活動のサポートを行っています。

一般的な関係

お客様

料金

民間企業  
社会福祉法人  
など

サービス

地域貢献

人材派遣

場の提供

運営費補助

公益的事業

地域の団体 等

みんなで勉強したい



活動の場がほしい



子ども食堂をやりたい



- ・クラウドファンディング
- ・テーマ設定型(共同募金)

# 藤沢型地域包括ケアシステム 4つのポイント

## ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。これからは、支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

## ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。分野を超えた横のつながりで課題を解決するネットワークが必要。

## ③ 【推進体制】

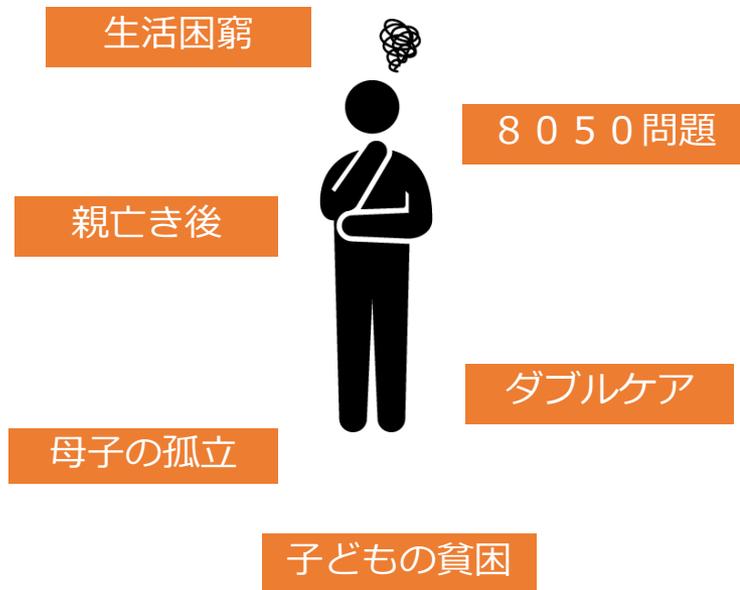
藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

## ④ 【地域福祉計画】

地域共生社会の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステムの考え方や方向性を踏まえ、地域福祉を総合的に推進する理念計画。

## ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。



**分野を超えた横のつながりで**  
課題を解決するネットワークが必要。



## ②【地域生活課題】

# 個人・世帯における「複合的」「制度のはざま」などの 困りごとに対応する必要性

- ・個人・世帯として「複合的」な課題を抱えている方が増えている。

※ダブルケア（子育てと介護を同時に担う）など

- ・公的支援の対象となりにくい、「制度のはざま」が顕在化してきている。

※大人のひきこもり など

## ②【地域生活課題】

# 「複合的」「はざま」な課題に関する対応の例

CSW・バックアップふじさわ社協での相談事例

### ○ 認知症の母、がん告知を受けた姉と同居する40代の男性

介護 × 医療 × 生活困窮者支援

- ・ 母の年金と姉の給与で生活。
- ・ 姉の病状は深刻で、入院などにも備えた生活設計（特に経済面）が必要。
- ・ 本人は高校卒業後、建築関連の日雇いの仕事に従事していたが、ここ数年は、仕事もせず、家で過ごすことが多い。
- ・ 母の介護、姉の療養、本人の今後の生活など、複合的な課題への支援が必要。

### ○ 50代の息子から母への暴力の問題で、支援機関が介入

介護 × 生活困窮者支援

- ・ 80代の母の介護を理由に、息子は仕事をしておらず、世帯収入は母の年金のみ。
- ・ 最近母の認知症が進み、息子の介護負担が増えてきている。
- ・ 息子は卒業後、アルバイト程度の就労経験しかなく、また外出や人との接触を避けてきたため、社会経験に乏しい。
- ・ 母の庇護のもと、これまで息子は特に不自由なく生活してきた。

(プライバシー保護のため一部内容を加工しています)

▶ **多分野の連携が必要**

## ②【地域生活課題】

# 地域を基盤とした相談援助と地域づくり支援(市社協CSW)

## コミュニティ・ソーシャルワーカー(CSW)とは

地域のさまざまな困りごとに対して、「個別支援」と「地域支援」の双方の視点から支援を行い、支えあいの地域づくりのサポートをする専門職です。

市が、市社会福祉協議会に委託する形で、2016年4月から事業を開始し、以後拡充を進め、2020年に全13地区に配置しました。



## ②【地域生活課題】

# 地域を基盤とした相談援助と地域づくり支援(市社協CSW)



(バックアップふじさわ社協)

秘密厳守いたします

「どこに相談していいのかわからない…」

**どのような困りごとでもご相談ください!!**

に相談してみませんか？

CSWとは？

今ある制度では解決しにくい困りごとを抱えている方に寄り添い、一緒に考え、その解決に向けてお手伝いをします。また、一人ひとりの支援に加え、地域づくりのパートナーとして、地域の皆様のささえあいの支援を行います。



個別支援

さまざまな生活の困りごと

+

地域の困りごと

地域支援

相談するには？

相談は無料です。まずはご連絡ください。電話相談やご自宅等ご都合のよい場所に訪問し、相談をお受けします。

- ・新しい活動を始めたい
- ・隣近所で交流する場がほしい
- ・地域貢献活動をしたい など・・・

社会福祉法人 藤沢市社会福祉協議会  
地域支援担当 コミュニティソーシャルワーカー  
☎ **0466-47-8131**

〒251-0054  
藤沢市朝日町1-1藤沢市役所分庁舎1階  
月～金(祝日年末年始除く)  
8:30～17:00



(長後市民センター)

各市民センターで、定期的な相談窓口を開設し、様々な相談を受けるほか、地域でのアウトリーチを中心とした相談支援も行っています。

また、地域のイベント等へも参加し、地域の人や団体等との顔の見える関係づくりを進めています。

**令和2年度から全地区配置**

## ②【地域生活課題】

# さらに・・・分野を超えた課題解決の取組例

### ○住まいに困難を抱える方の入居支援

住宅政策 × 福祉

住宅確保要配慮者（住まいの確保が困難な高齢者・障がい者等）が賃貸住宅に円滑に入居するための支援体制の構築に向けて、行政、不動産関係団体、福祉関係団体（居住支援法人）などで構成する「藤沢市居住支援協議会」を設置（2020年8月～）。



### ○農福連携

農業 × 福祉

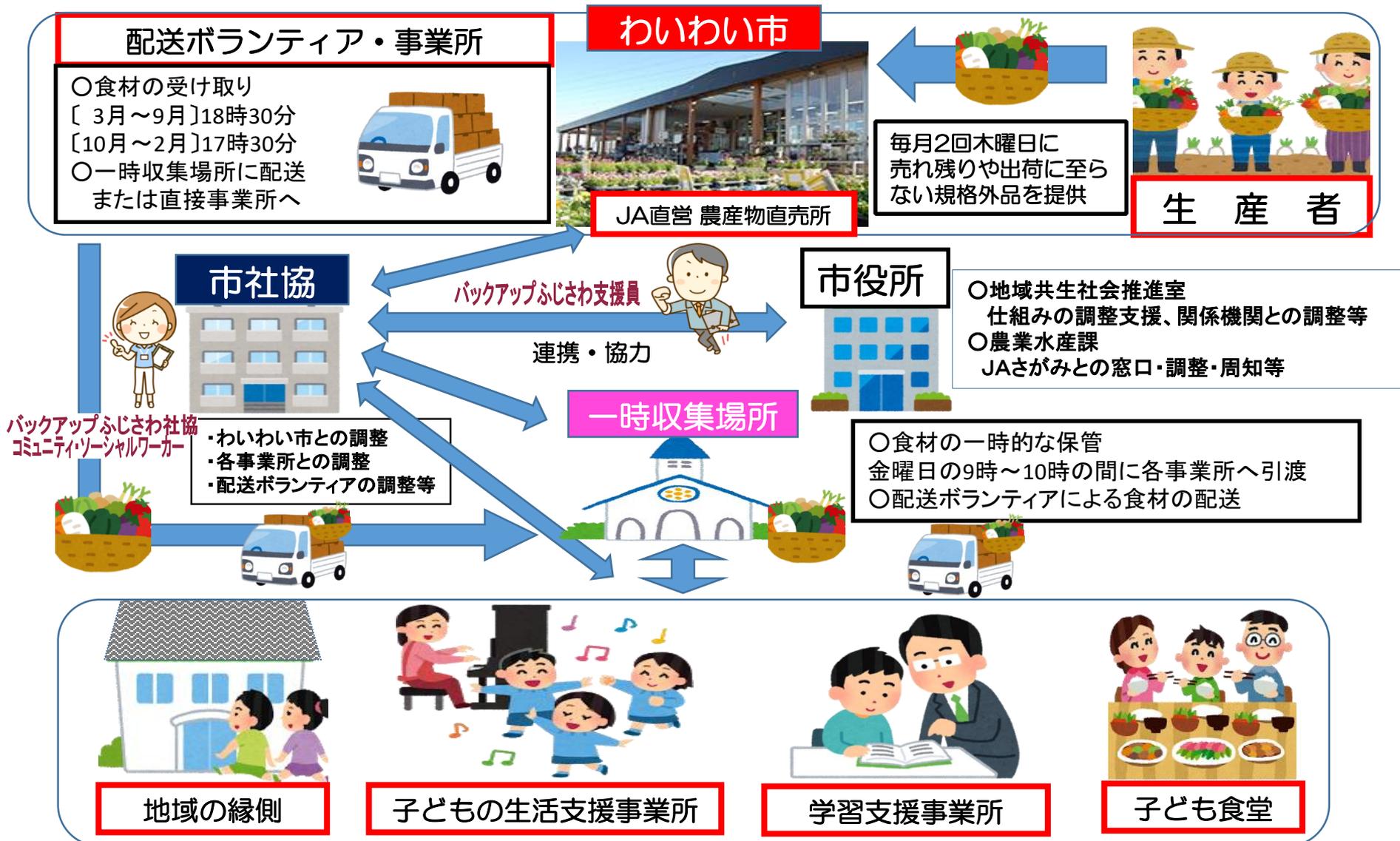
①障がいのある人等の雇用の方としての農福連携  
農業分野の担い手不足解消と、障がいのある人やひきこもりの状態にある方などの就労機会の確保に向けて、農家と福祉事業者との連携を進め、就農を促進する。

②食材提供支援  
JAと行政、市社会福祉協議会が連携し、福祉活動を行っている団体等に対して食材を提供。



## ②【地域生活課題】

# 民間・市社協と協力した食材提供支援



## ②【地域生活課題】

都市計画・交通

×

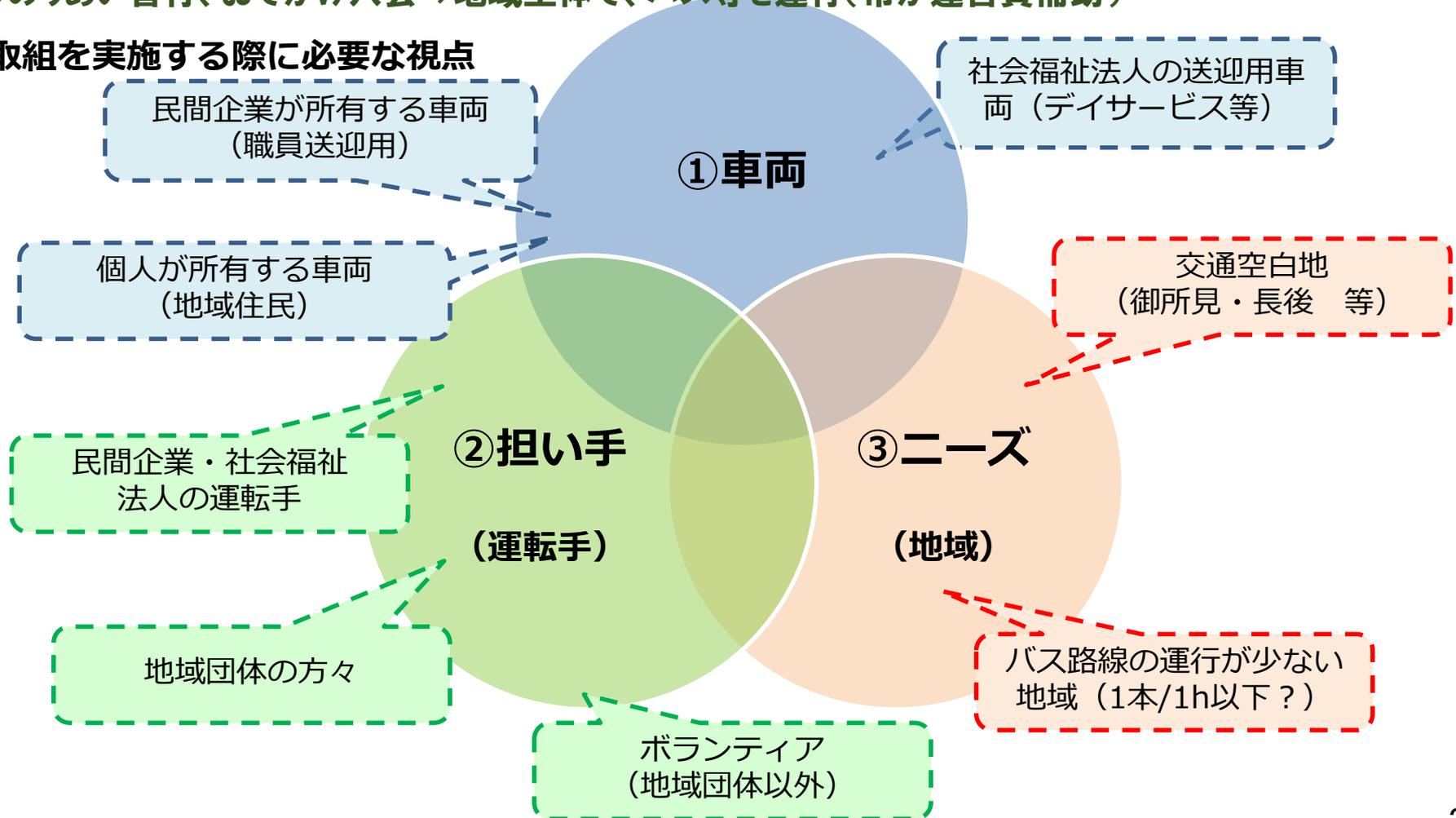
福祉

# 民間事業者等との協働による外出支援

～現状～

- 地域公共交通(電車・バス・タクシー)⇒交通事業者が運営(採算が取れることが前提)
- すまいるバス⇒市内3か所の老人福祉センターへの送迎(市が委託)
- のりあい善行、おでかけ六会⇒地域主体で、バス等を運行(市が運営費補助)

取組を実施する際に必要な視点



## ②【地域生活課題】

# 民間事業者等の力を活用した外出支援の事例

## 社会福祉法人の車両を活用した買い物支援(モデル実施)

社会福祉法人が所有する車両の空き時間を利用し、地域の縁側を拠点とした買い物支援を、交通空白地を中心に実施する。

地域の縁側を拠点とすることで、地域とのつながりが生まれ、買い物以外でも外出するきっかけにつながる。さらには、新たな地域コミュニティの形成にもつながる。



## 自動車学校の送迎バスを活用した外出支援(モデル実施)

自動車学校の受講者に向けた送迎バスについて、空きスペース(座席)を利用した移動支援を、交通空白地在住の高齢者を対象に実施する。

既存の送迎ルートにおいて、バス路線と重複しない地域において、通常の外出支援(生活支援)として実施する。



# 藤沢型地域包括ケアシステム 4つのポイント

## ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。これからは、支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

## ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。分野を超えた横のつながりで課題を解決するネットワークが必要。

## ③ 【推進体制】

藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

## ④ 【地域福祉計画】

地域共生社会の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステムの考え方や方向性を踏まえ、地域福祉を総合的に推進する理念計画。

### ③ 【推進体制】

藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

めざす将来像と3つの基本理念  
(平成27年度～)

誰もが住み慣れた地域で その人らしく  
安心して暮らし続けることができるまち

#### 1 全世代・全対象型地域包括ケア

子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者等、すべての市民が対象

#### 2 地域の特性や課題・ニーズに応じた取組

1 3 地区ごとに、地域で培った文化、歴史等の特性を活かしつつ、人口構造の変化や社会資源の状況に応じたまちづくり

#### 3 地域を基盤とした総合的・包括的な 相談支援体制 (社会的孤立や制度の狭間の問題にも対応)

支援を必要とする人が、身近な地域で確実に支援を受け  
ることができる、相談支援体制の確立

「地域共生社会」  
の実現をめざす

### ③ 【推進体制】 （参考）「地域共生社会」とは？

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

（厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」から抜粋）

「地域共生社会」は、国が掲げる、今後めざすべき社会のあり方を示すものであり、藤沢型地域包括ケアシステムも、この「地域共生社会」の実現をめざしています。

詳しくはこちら [厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」](#)

**地域共生社会** **ポータル** 🔍



# 藤沢型地域包括ケアシステムの推進体制

全世代型の地域包括ケアを進めるためには、13地区の高齢化率や地理的・歴史的な特徴などを捉える必要があります。

また、複合化・複雑化している様々な課題は、1つの課だけ、行政だけ、地域だけで、解消できないものもあります。

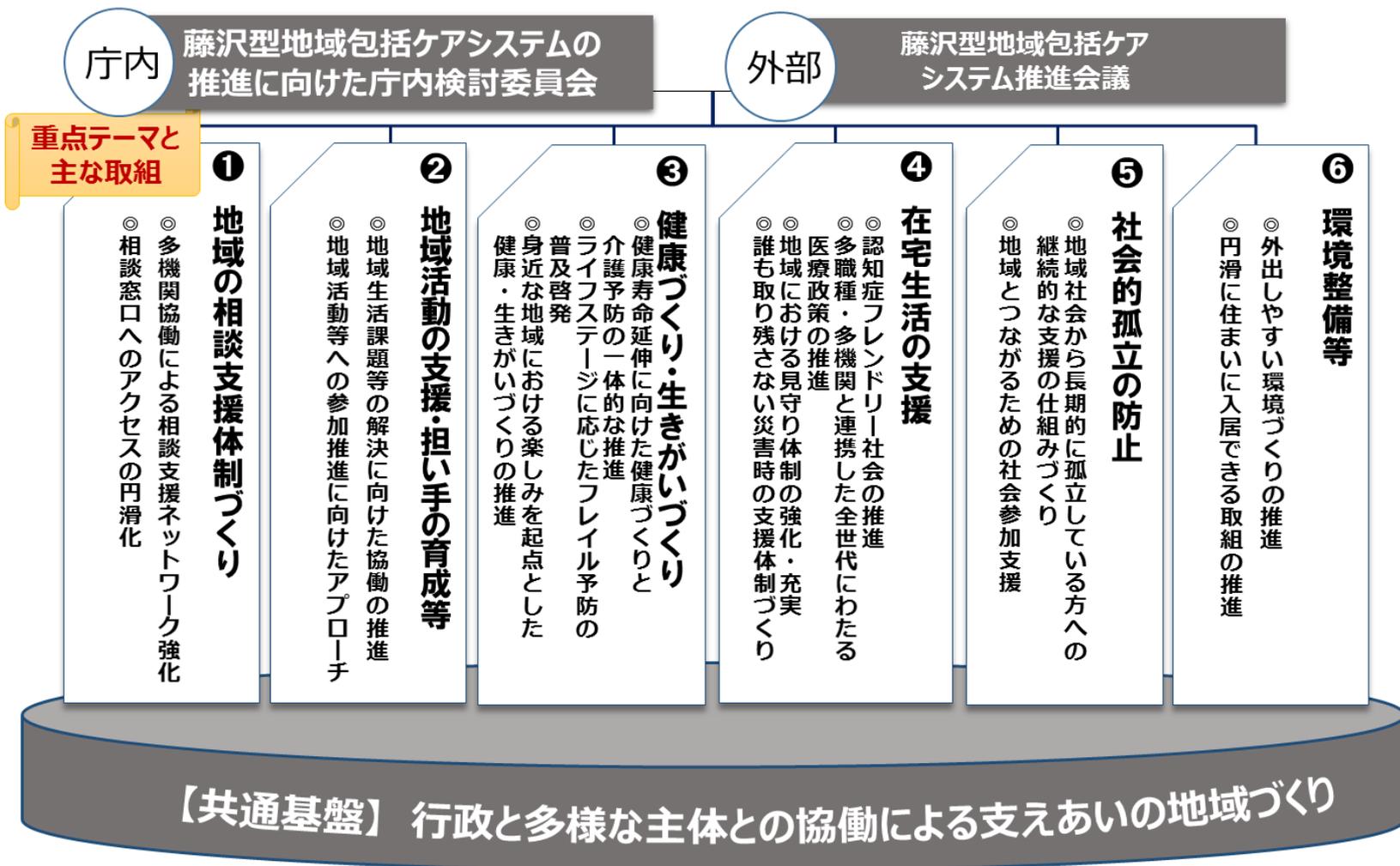
そのため、藤沢型地域包括ケアシステムは、特に力をいれるべき論点の整理として、重点的に検討するテーマを定めるとともに、庁内における分野横断的な検討体制と、庁外との検討をすすめる様々な会議体により、推進しています。

## 藤沢型地域包括ケアシステムの推進体制 ポイント

- 6項目の**重点テーマ**ごとの推進
- 日常生活圏域**13地区**ごとの推進

### ③ 【推進体制】

『藤沢型地域包括ケアシステム』の推進にあたっては、分野横断的に取り組むべき**6項目**を重点テーマとして設定し、庁内横断的な連携や多様な主体との連携により、課題解決に向けた取組を推進しています。



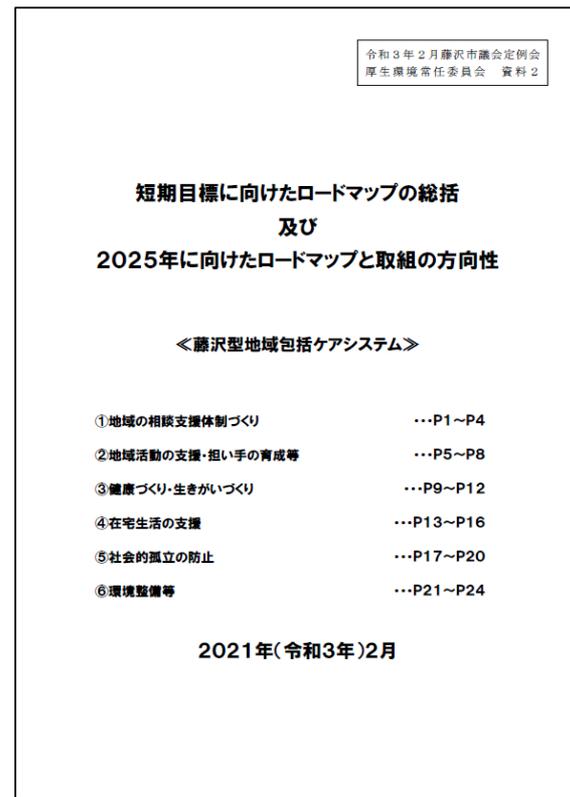
### ③ 【推進体制】

## 2025年に向けたロードマップ

これまで、6項目の重点テーマごとに2020年までのロードマップを作成し、重点テーマごとに目標の実現に向けた基盤整備を進めてきました。

令和2年度にロードマップの見直しを行い、新たに2025年に向けた目標の再設定を行いました。

新たなロードマップに基づき、庁内外における取組を推進していきます。



2020年まで

2025年まで

2040年を  
見据える

### 基盤・仕組みづくり

- ・相談窓口の整備
- ・交流の場の整備
- ・コミュニティソーシャルワーカー  
(CSW) 全地区配置など

### 体制の強化

地域のネットワークをより強化し、  
地域生活課題の解決をめざす

### ③ 【推進体制】

## 藤沢型地域包括ケアシステムの庁内推進体制

### 庁内検討委員会



- 年4回程度開催
- 各部総務課および関係課で構成
- 各部局ごとの情報交換、藤沢型地域包括ケアの基本的な方向性の検討

### 専門部会



- 6項目の重点テーマごとに年2回程度開催
- テーマごとに、関係する課等が参加
- 各課等が抱える課題や取組の情報交換、分科会で行う取組の検討

### 分科会



- 専門部会や、各課からの発案などで立ち上げられた、課題解決プロジェクト
- 分科「会」としているが、必ずしも会議を行っているわけではなく、課題に応じた取組を進めている
- 関係する複数の課が参加し、地域の団体や企業等と協働して取組を推進

(主な分科会テーマ)

相談支援、終活、見守り、農福連携、地域防災、居住支援、外出支援など・・・

### ③ 【推進体制】

## 藤沢型地域包括ケアシステムの庁内推進体制

総務部	行政総務課
企画政策部	企画政策課
防災安全部	防災政策課 危機管理課 防犯交通安全課
市民自治部	市民自治推進課（各センター） 市民相談情報課
生涯学習部	生涯学習総務課（公民館）
福祉部	福祉総務課 介護保険課 障がい者支援課 生活援護課 地域共生社会推進室
健康医療部	地域医療推進室 地域保健課 健康づくり課 保健予防課
子ども青少年部	子育て企画課 子ども家庭課 保育課 子育て給付課 青少年課
環境部	環境総務課 環境事業センター
経済部	産業労働課 農業水産課
計画建築部	建設総務課 都市計画課 住宅政策課
教育部	教育総務課 教育指導課

※藤沢市社会福祉協議会  
オブザーバーとして参加

### ③ 【推進体制】

多分野の  
協働で実施

## これまでの主な取組(重点テーマごと)

〇〇分野

×

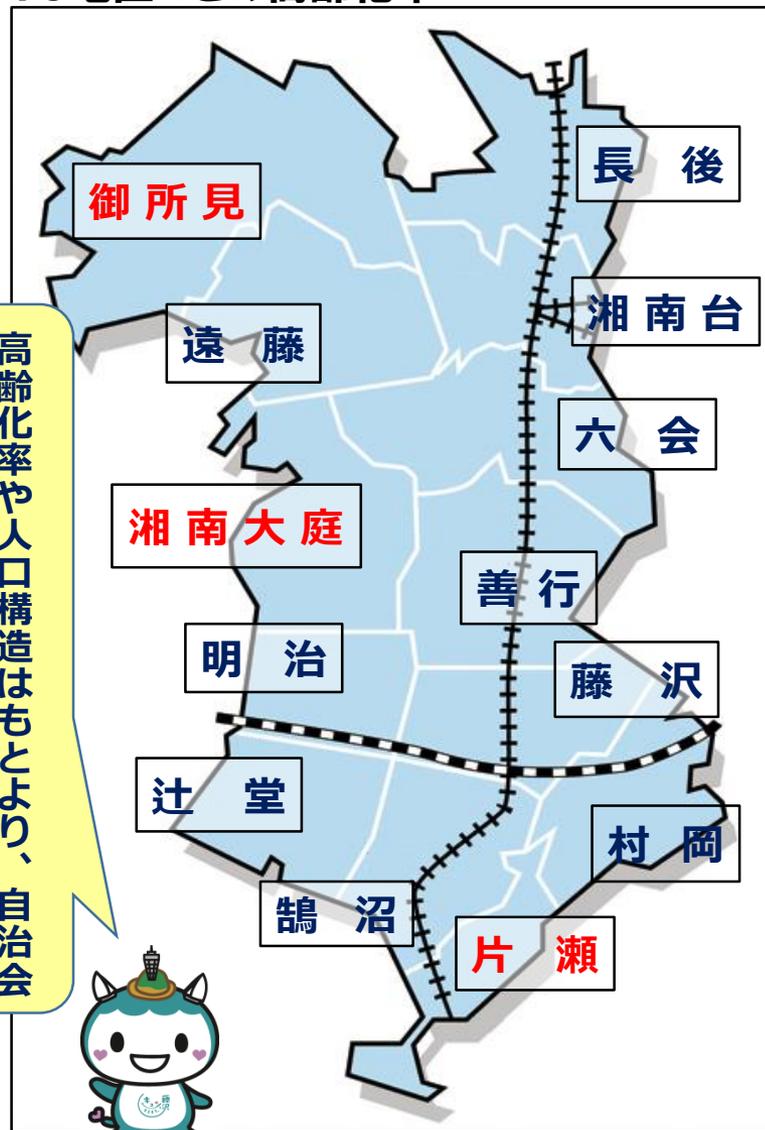
〇〇分野

重点テーマ	これまでの主な取組
① 地域の相談支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 相談支援窓口の設置・拡充（福祉総合相談支援センター，北部福祉総合相談室，バックアップふじさわ,サテライト型地域包括支援センターなど）</li><li>・ 市民センター・公民館機能の強化（全13地区で新体制開始）</li></ul>
② 地域活動の支援・担い手の育成等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 協議体・地域ケア会議など，各地区における地域生活課題を協議する場の設置・充実</li><li>・ 「地域の縁側」を中心とした身近な居場所・交流・相談の拠点づくり</li><li>・ 市役所分庁舎「地域福祉プラザ」の開設</li></ul>
③ 健康づくり・生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 多職種と連携したフレイル・オーラルフレイル予防の推進</li><li>・ 民間企業等多様な主体と連携した健康づくりの推進</li><li>・ 健康づくり・介護予防に関する市民参加の促進</li></ul>
④ 在宅生活の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 藤沢おれんじプランの作成と，認知症にやさしいまちづくりの推進</li><li>・ 在宅医療・介護連携の推進（多機関協働による包括的支援体制の構築）</li><li>・ 障がい児者等の，在宅医療や在宅生活の課題解決に向けた取組の推進</li><li>・ 終活や見守りに関する，民間企業・商店・団体等との連携</li></ul>
⑤ 社会的孤立の防止	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全13地区にコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置</li><li>・ 農福連携による，多様な社会参加の推進</li><li>・ 地域団体等と福祉関係の事業者が連携し，社会参加を支援する取組を実施</li></ul>
⑥ 環境整備等	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 交通空白地に対する，様々な形での移動支援の展開</li><li>・ 新たな住宅セーフティネット制度に基づく，居住支援協議会の設置</li><li>・ 地域の衛生面に配慮した住環境を維持する仕組みを検討</li></ul>

### ③ 【推進体制】

## 13地区ごとの取組

#### 13地区ごとの高齢化率



順位	2015年			2025年	
	地区 (65歳以上人口)	高齢化率		地区 (65歳以上人口)	高齢化率
1	湘南大庭 (9,228人)	28.6%		湘南大庭 (12,028人)	36.7%
2	御所見 (5,160人)	28.3%	▶	御所見 (5,538人)	30.7%
3	片瀬 (5,594人)	27.8%		片瀬 (6,004人)	30.3%
4	長後 (8,588人)	25.8%		善行 (12,197人)	29.0%
5	善行 (10,775人)	25.5%		長後 (9,599人)	28.3%
6	鵜沼 (13,077人)	23.6%		遠藤 (3,222人)	26.4%
7	藤沢 (10,162人)	22.8%		鵜沼 (14,777人)	25.9%
8	辻堂 (9,010人)	21.8%		藤沢 (11,528人)	24.6%
9	村岡 (6,381人)	21.5%		村岡 (7,238人)	23.1%
10	遠藤 (2,450人)	21.3%		湘南台 (7,606人)	22.8%
11	明治 (5,904人)	20.6%		六会 (8,519人)	22.7%
12	六会 (7,214人)	20.2%		明治 (7,310人)	22.3%
13	湘南台 (5,721人)	18.4%		辻堂 (9,222人)	21.3%

※2015年の国勢調査に基づく「藤沢市将来人口推計」より

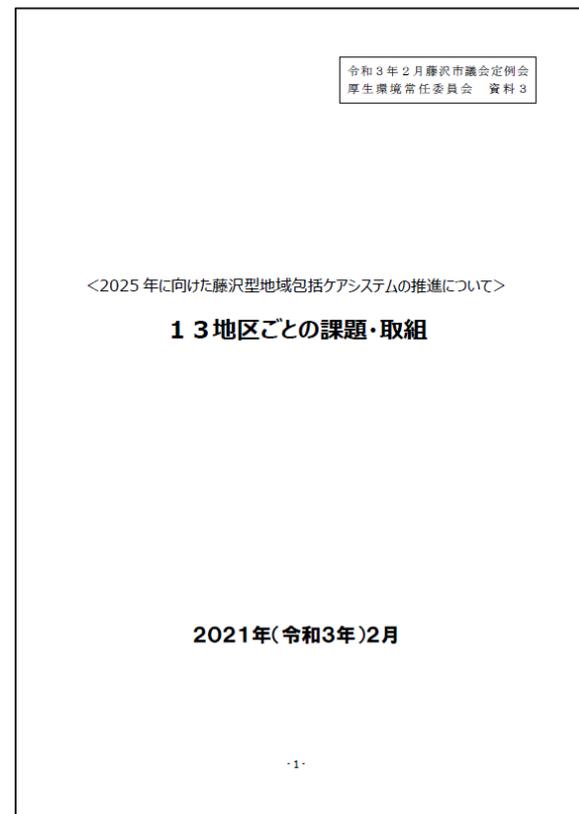
### ③ 【推進体制】

## 13地区ごとの取組

藤沢市内でも、13地区ごとに特徴や課題はそれぞれ違います。

そのため、13地区ごとの状況を踏まえた取組を推進することで、地域のニーズにあったサービスの提供等につながります。

藤沢型地域包括ケアを推進するために、各地区の会議等において、地域団体等と課題を共有したうえで、地域の多様な主体と協働し、様々な取組を進めています。



### 取組の一例



地域の縁側における防災セミナー



終活をテーマにしたイベント



六会地区の地域資源を紹介するマップ

### ③ 【推進体制】 13地区ごとの取組

## 立場や分野を超えた支えあいのための連携・つながりづくりの事例



### 連携・つながりづくり(湘南大庭地区)

CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

地域の縁側

学習支援



(交流スペースまっと舎主催の敬老会)



(CSWがらわれあいサロンに参加)



(大庭教室)



子どもと地域の大人をつなぐ居場所  
(たきのさわパラダイス)

### 団地を活用した介護サービス



### 地区ボランティアセンター



(ライフタウン・ジョワ)

(小規模多機能“ぐるんとびー”)

# 藤沢型地域包括ケアシステム 4つのポイント

## ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。これからは、支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

## ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。分野を超えた横のつながりで課題を解決するネットワークが必要。

## ③ 【推進体制】

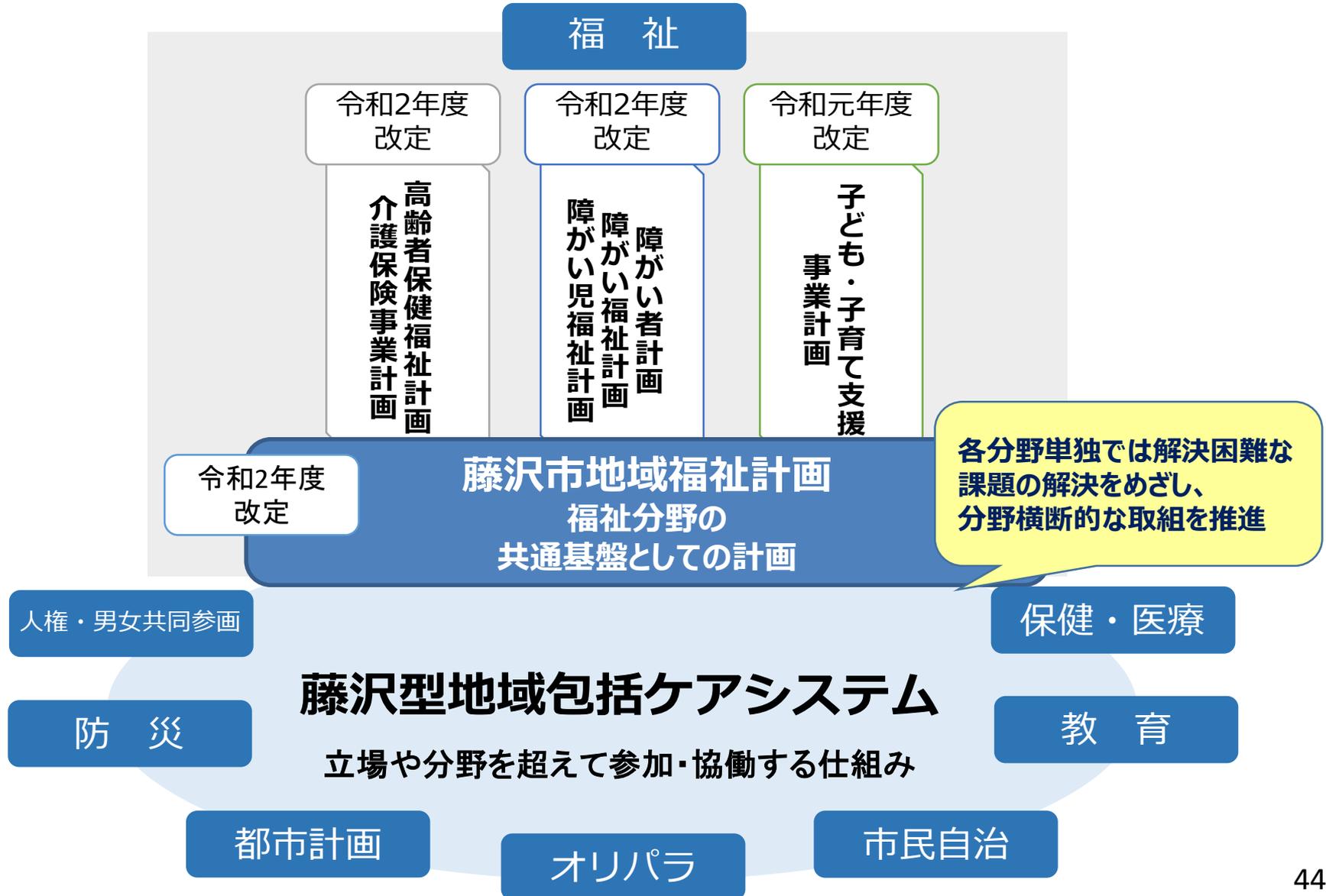
藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

## ④ 【地域福祉計画】

地域共生社会の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステムの考え方や方向性を踏まえ、地域福祉を総合的に推進する理念計画。

## ④ 【地域福祉計画】

# 藤沢型地域包括ケアシステムと各行政計画との関係



## ④ 【地域福祉計画】

# 藤沢市地域福祉計画 2026（策定のプロセス）

令和2年度  
改定

### ➤ 近年の社会動向の整理

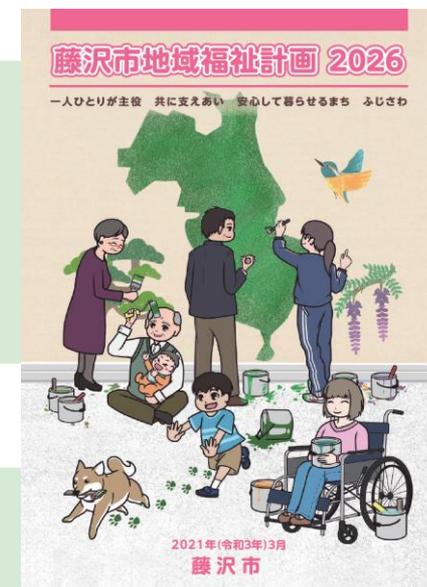
- SDGs(持続可能な開発目標)の視点
- 社会福祉法の改正  
（地域共生社会の実現のために「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に行う「重層的支援体制整備事業」を創設 など）
- 成年後見制度や再犯防止に関する法整備など
- 新型コロナウイルス感染症の拡大→新しい生活様式に基づく新たな地域づくりの視点

### ➤ ニーズ調査による課題把握

- 地域福祉に関するアンケート  
15歳以上の市民4,000人(無作為抽出)を対象とした意識調査
- 団体ヒアリング調査  
高齢・障がい・児童関連団体、自治会、地域団体、保護司会など38団体を対象に聞き取り調査等を実施

### ➤ 意見交換

- 地域福祉計画推進委員会(外部審議会)
- 地域福祉計画推進庁内連絡会議



## ④ 【地域福祉計画】

# 藤沢市地域福祉計画2026（背景・課題）

○地域福祉に関するアンケート調査

※2019年（令和元年）実施

15歳以上の市民4,000人（無作為抽出）を対象とした意識調査

## 地域のボランティア活動の参加意向

「既に参加しており、これからも続けたい」

「参加したことはないが、今後参加してみたい」と感じる割合の合計

平成28年度調査

48.6%



令和元年度調査

44.4%



## ④ 【地域福祉計画】

# 藤沢市地域福祉計画 2026（背景・課題）

○地域福祉に関するアンケート調査

※2019年（令和元年）実施

15歳以上の市民4,000人（無作為抽出）を対象とした意識調査

## 地域で支えられていると感じること

地域に支えられることが「大いにある」「多少はある」と感じる割合の合計

平成28年度調査

43.7%



令和元年度調査

39.7%



## ④ 【地域福祉計画】

# 藤沢市地域福祉計画2026（背景・課題）

○地域福祉に関するアンケート調査

※2019年（令和元年）実施

15歳以上の市民4,000人（無作為抽出）を対象とした意識調査

## 様々な相談に対応できる地域づくり

「充実している」「まあ充実している」と感じる割合の合計

平成28年度調査

16.5%



令和元年度調査

12.2%



地域の担い手の育成、地域でのつながりの構築、相談・支援体制の強化の必要性など、課題が表出

#### ④ 【地域福祉計画】

## 藤沢市地域福祉計画 2026（体系図）

令和2年度  
改定

地域福祉  
推進ビジョン

基本目標

施策の方向性

一人ひとりが主役  
安心して暮らせるまち  
共に支えあい  
ふじさわ

1. 地域に関心を持ち、  
行動できる人材づくり

2. お互いが見守り、  
支えあい、つながる  
地域づくり

3. 誰もが安心して  
暮らせる仕組みづくり

(1) 誰一人取り残さない地域づくりに  
向けた周知・啓発

(2) 地域福祉活動の普及・啓発

(3) 地域福祉の担い手の育成・参加促進

(1) 地域における交流の促進

(2) 課題を早期発見・早期対応できる地域づくり

(3) 福祉団体等の活動支援

(4) 災害時に備えた地域づくりの推進

(1) 地域福祉の基盤づくりとネットワークの強化

(2) 包括的な相談・支援体制の強化

(3) 権利擁護のための支援の充実

(4) 更生支援に向けた地域づくり

施策の  
展開



令和2年社会福祉法改正も踏まえ、地域共生社会の実現に向けた  
取組の深化・推進に向けた新たな施策を位置づける

## ④ 【地域福祉計画】

# 地域福祉を推進するうえで重要な「4助」

### ◎ 自分のことは自分です ◎

健康管理を含め、日常生活において、できる範囲のことは自分で行う。

また、必要に応じて、民間サービスの利用を選択し、購入する。

**（自らの選択・自己負担）**



### ◎ 地域などで互いに支えあう ◎

地域での日頃の声かけや見守りから、ボランティアや住民組織での活動まで、日常生活において、住民同士で互いに助けあい、支えあいながら、地域で生活する。

**（相互の自発的な支えあい）**



**自 互  
共 公**

### ◎ 社会保険制度を活用する ◎

本人の状態に応じて、介護保険制度や医療保険制度などを活用し、介護サービスや、医療サービスなど、様々な保険サービスを受ける。

**（保険料などの負担）**

### ◎ 行政などの公的サービスを受ける ◎

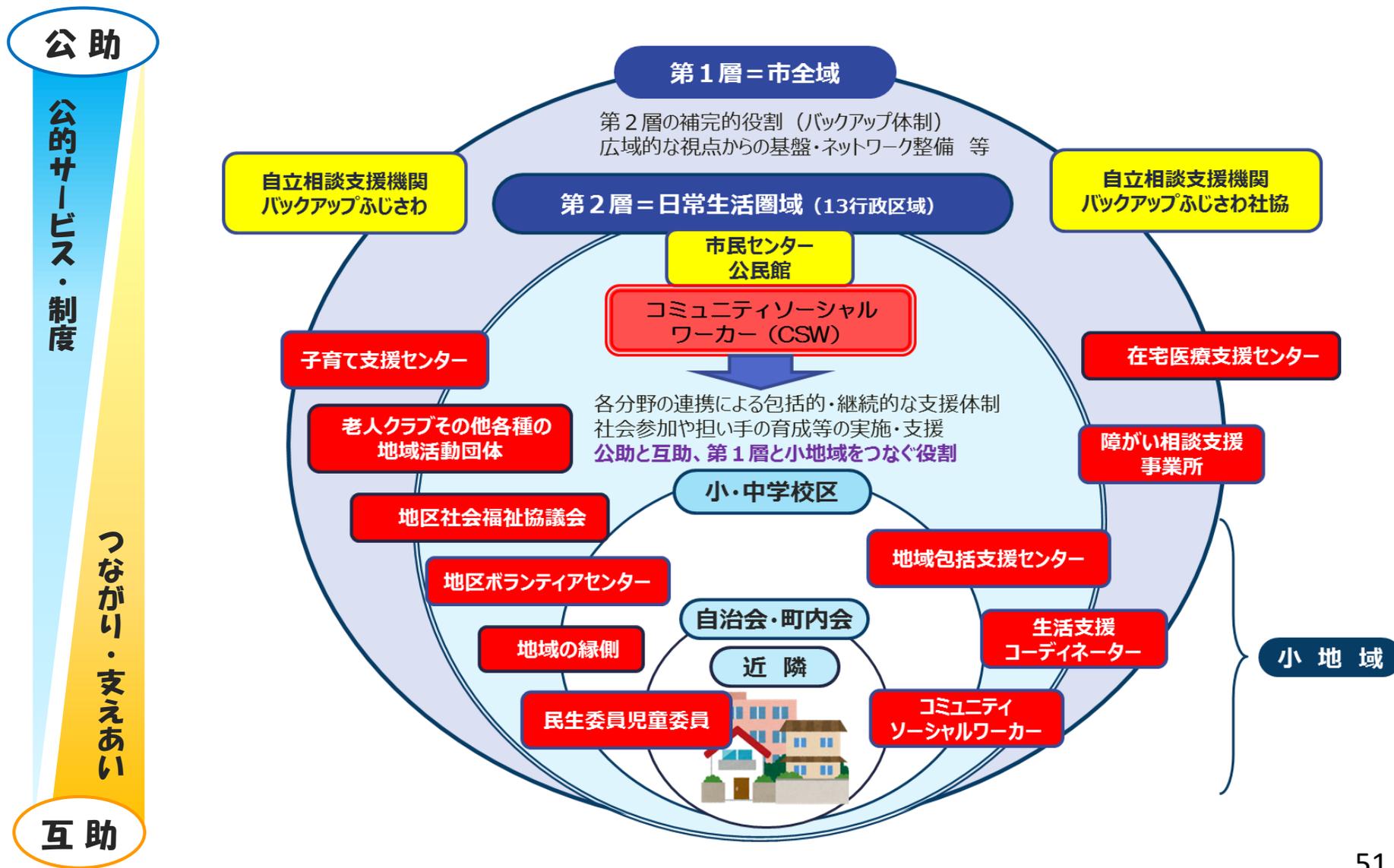
本人の状況などに応じて、行政が行う様々な福祉事業・サービスや、生活保護などの公的支援を受ける。

また、行政において、個人の尊厳を尊重するため、人権擁護に関する取組や虐待対策などを行う。

**（税金による公的負担）**

# ④ 【地域福祉計画】

## 生活圏域としての階層（地域福祉計画での重層的な圏域設定）



## ④ 【地域福祉計画】

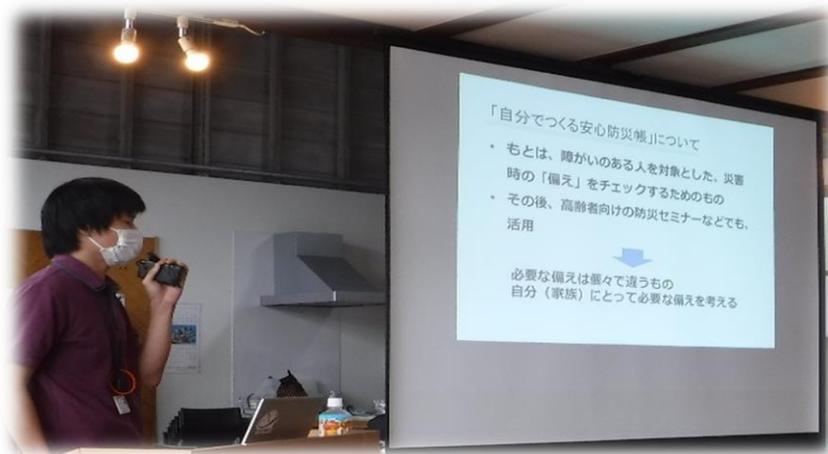
# 地域福祉計画に関連する取組 ① (地域福祉の関心を高める)

### ケアラーケア・認知症施策の啓発



「ダブルケア」に関するパネル展示

### 地域防災に関する啓発



「地域の縁側」での防災セミナー



ファーストフードでの認知症カフェ



公民館での防災ギャラリー

## ④ 【地域福祉計画】

# 地域福祉計画に関連する取組 ② (子どもの学習支援と居場所)

学習サポート



学生ボランティアが企画したデイキャンプ



## ④ 【地域福祉計画】

# 地域福祉計画に関連する取組 ③ (垣根を越えた「つながり」)



もしも、ひとりでごはんを食べるなら、  
たまには、みんなで。まりあ食堂で。



「なんかわからないけど、たのしいね。」  
子どもたちのこんなことばに支えられて。



つながる「わ」を大切に。

地域の皆さん、教会関係者、市や社協のスタッフ、  
JAさがみ、生産者の皆さんなど、垣根を越えた人  
の「つながり」による子ども食堂の取り組み。

# 4つのポイント

### ① 【背景】

少子高齢化により、生産年齢人口と高齢者人口のバランスが変化。これからは、支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、将来にわたり持続可能な社会の仕組みづくりが必要。

### ② 【地域生活課題】

複雑化・複合化している地域生活課題に対して、これまでの縦割りのサービス提供だけでは、支援を十分に届けることが難しい。分野を超えた横のつながりで課題を解決するネットワークが必要。

### ③ 【推進体制】

藤沢型地域包括ケアシステムは、立場や分野を超えて、様々な人や団体が参加する地域の支えあいシステムを作るためのプロジェクト。

### ④ 【地域福祉計画】

地域共生社会の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステムの考え方や方向性を踏まえ、地域福祉を総合的に推進する理念計画。



以上です。

ありがとうございました。